

はじめに

「2001年9月11日に起きた同時多発テロ事件はアメリカ政府による自作自演だった」

と語れば、今でも陰謀論好きな人たちが話に食らいつく。わたしもアメリカ政府によるインサイドジョブ（内部犯行）だと長い間信じていた。しかしアメリカ政府の自作自演と言った場合、いったい何のメリットがあったのだろうか？もちろん「テロとの戦い」という大義を使って中東へ侵略するとか、相手国の石油利権を得るためだとかいろいろ考えられるが、そんな動機であんな手の込んだ大惨事を引き起こしたのだろうか？そして石油利権のために、ビルを破壊し米国市民までも巻き込んだメリットはあったのだろうか？

一応、表向きにはアメリカ同時多発テロ事件はこのように報道されている。

2001年9月11日朝、アラブ系とみられるグループによって、国内便4機がほぼ同時にハイジャックされた。このうち2機がニューヨークにある世界貿易センターの2棟に突入し爆発炎上、1機はワシントンDCにある米国防総省（ペンタゴン）に激突し爆発炎上した。最後の1機はペンシルバニア州ピッツバーグ郊外に墜落した。アメリカ政府は一連のハイジャック事件をアフガニスタンに住むイスラム原理主義武装集団アルカイダ指導者、オサマ・ビンラディンを首謀者とした「テロ事件」と分析した。

本稿では、飛行機激突が不自然であるとか、事件前のインサイダー取引などといったことを詳しく掘り下げて説明することは控える。その手の書籍であれば他にいくらでもあるし、インターネットでも簡単に探すことができるからだ。それよりも皆さんは9.11で破壊されたワールドトレードセンターが実はフリーメイソンのテンブルであったのはご存知だろうか？

あのテロ事件で、どのようにビルが破壊されたかを説く人は沢山いるが、何が新しく建設されたかを説いている人はあまり聞かない。あの場所になぜワールドトレードセンターが建設され、そして崩壊後、何が再建されたのか？

今回はそんなささやかな発見を手掛かりにアメリカ同時多発テロの本質に迫ってみる。

秘密の子午線弧

ワールドトレードセンター崩壊の裏に隠された子午線

はじめに

—目次—

第一章 マンハッタン計画と世界貿易センター建設プロジェクト

第二章 グリニッジ・ストリートは子午線

第三章 中央プラザ（広場）にある球体の The Sphere

第四章 フリーメイソン

第五章 ギザのピラミッドと古代文明人

第六章 隠されたピラミッド

第七章 破壊された月の現在地

第八章 新しいワールドトレードセンター

第九章 ピッツバーグ郊外に建てられた記念碑

第十章 パリの子午線

第十一章 月への固執 アポロ11

第十二章 新しい時代とは宇宙開発

おわりに

第一章 マンハッタン計画と世界貿易センター建設プロジェクト

1943年、ニューヨーク州マンハッタン地区に世界貿易センター商業施設を設置するというアイデアが提案された。第二次世界大戦中だ。しかし戦後（1949年）世界貿易センター建設プロジェクトは凍結されてしまう。このプロジェクトが復活し、ビルの建設が決定するのは1960年以降の話になる。ロックフェラー家が掲げる「World Peace through Trade（貿易を通じての世界平和）」から命名されたワールドトレードセンターだが、今考えれば、世界貿易センター建設プロジェクトもマンハッタン計画という国家軍事プロジェクトからの発展であったことと思う。

マンハッタン計画とは1942年にルーズベルト米大統領直轄の最優先プロジェクトとして、膨大な資金と人材が投入された原子爆弾開発・製造プロジェクトであるが、もともと1939年のアメリカ陸軍工兵隊（US Army Corps of Engineers）の計画であった「Manhattan Engineer District（マンハッタン工兵隊区）」のコードネームが由来である。つまり当初の目的は原爆の製造開発ではなかった。

1938年暮にドイツはウランの核分裂を発見し、連合側に衝撃を与えた。当時のドイツは科学の最先進国であったからだ。そして1939年9月にドイツがポーランド進攻し旧チェコスロバキアのウラン鉱山を手中に収めると、米国の大学や研究所でも核分裂に関連する研究が一斉に開始された。

1939年にイタリアから米国に亡命してきた物理学者エンリコ・フェルミがコロンビア大学に招かれてウランの核分裂の研究をしていたが、この核分裂連鎖反応が軍事的重要性を帯びてきたためにこの研究が国家軍事プロジェクトとしても発展していくことになった。1941年にはウラン濃縮法として、ガス拡散法、電磁分離法、遠心分離法の3種類の開発が進められた。そしてマンハッタン計画の本部はテネシー州オークリッジへ移され、濃縮ウランの分離研究のために巨大なウラン濃縮工場が建設された。ワシントン州ハンフォードではプルトニウム生産用の原子炉と化学分離工場が建設され、そしてニューメキシコ州ロスアラモスの研究所で原爆の設計開発と製造を行い、そこから1945年の広島、長崎での原爆投下につながることになる。ちなみに1945年4月12日、ルーズベルト大統領が急逝したため、原爆投下は副大統領のトルーマンが新大統領に就任した後の話である。

画像は非公式のマンハッタン計画のエンブレムと記章である。エンブレムはManhattan Project A Bombと書かれているが、このAはAtomic Bomb（原爆）のことで、城はアメリカ陸軍工兵隊のロゴである。このアメリカ陸軍工兵隊は独立戦争の時にはすでに存在していた。当時のアメリカ陸軍工兵隊はフランス人技師で大半が構成されていたからフランス大東社経由のフリーメイソンたちであろう。わたしはこのエンブレムのAは原爆よりもピラミッドの形であると思っている。



アメリカはフリーメイソンが建国したといわれるが、案外間違いではない。またアメリカの独立戦争ではフランスがアメリカ側に肩入れした理由もうなずける。なぜならフリーメイソンが近代化した後、イギリスの大ロジはフランス大東社を正規のフリーメイソンと認めていなかったからだ。これはフランスのフリーメイソンが無神論者も受け入れたために起きた衝突だがフランス大東社は無神論者を歓迎したのではなく、つまりマニ思想を取り入れた結果、無神論者も受け入れることになってしまったのではないだろうか？ここに海洋系と大陸系のフリーメイソンの違いが派閥の衝突を招いているのかもしれない。

マンハッタン計画の記章の方は、赤い太陽に六角形のウラン、星はアメリカを指しているのであろう。しかし、これは原爆というよりも稲妻が地球に落ちてるようにしか見えない。この稲妻はナチスの武装親衛隊のSSマークが由来ではないだろうか？戦時中、原子核研究に携わる優秀なドイツ人科学者が大勢アメリカに亡命している。



ナチスの武装親衛隊のシンボルはSSであるが、これは「稲妻」を表しているのはご存知の通りだ。そしてこのSSを組み合わせたのがナチスのハーゲンクロイツと言われている。ドイツの聖なる木はOak Tree（カシの木）であり、ナチスの党鷲章を見てもハーゲンクロイツの周りにOakの葉があしらわれている。このOak Treeは雷神のシンボルとして色々なヨーロッパ神話に登場している。きっとドングリが落ちる木だから稲妻を連想させるのだろう。このマンハッタン計画の本部をテネシー州のOak Ridge（オークリッジ）に移動させ、現地の住民や政府の反対を押し切ってウラン濃縮工場を建設させたのも、この「Oak」という名前が関係しているのではないだろうか？雷神をシンボルにするということは自由電子（プラズマ）と水蒸気爆発の知識をほのめかしているであろう。

つまりナチスの上層部の人間とフリーメイソンの一部は電磁気学の知識を持っていて、その一部がアメリカへ渡り密かにマンハッタン計画の裏で進んでいたことと思われる。ただでさえウラン濃縮技術は厳しく情報管理され、議会への報告などは一切行われなかったらしいが、そのなかでも最高機密プロジェクトとして電磁波の開発も限られた関係者の間だけで極秘に行われていたことと思う。

わたしの考えでは、この電磁波計画のエネルギー利権が2001年9月11日のワールドトレードセンター崩壊を引き起こした原因であると思っている。原爆開発自体はウラン濃縮開発の副産物的存在であったのではないだろうか？その副産物に目を向けたのが、軍産複合体とトルーマン大統領なのであろう。

余談だが、ナチスの武装親衛隊のSSはSchwarze Sonne (Black Sun=黒い太陽) から来てるともいわれている。黒い太陽とは日食のことだ。カルト信仰していたSSの将軍ブリグートがヒトラーの側近ハインリヒ・ヒムラーにヴェヴェルスブル城を購入するように勧めた。この黒い太陽のシンボルはヴェヴェルスブル城の北の塔にある旧SS将軍ホール中央の床にある。この日食を意味する黒い太陽はナチスのハーゲンクロイツのデザインにも関係していると言われている。この日食信仰は古代エジプトにまでさかのぼることに最近気づいた。しかしカルト信仰だからといって馬鹿にできない。何故ならば、中世のようにカルトが科学だった時代もあるからだ。とにかく話がBlack Sunまで飛ぶと收拾がつかなくなるので、このBlack Sunは次の機会に見送りたい。

話を本稿のメインであるワールドトレードセンターに戻そう。もともとあのワールドトレードセンターあたりの敷地はRadio Rowと呼ばれ、電気部品を取り扱う店が並ぶ地区であった。しかし最初にプロジェクトの候補地に挙がったのはRadio Rowではなく、マンハッタンの東側、イーストリバーに面した場所であった。しかし、デイヴィッド・ロックフェラーがプロジェクトには港湾公社の関与が必須と提言し、ハドソン川、つまりマンハッタンの西側にある現在の所在地に変更させた。敷地をあのRadio Row地区に定めたのには「港湾公社の関与」以外の理由があるからである。(電気部品を取り扱っていた地区というのも因果のようだが)

知ってる人も多いと思うが、ワールドトレードセンター設計者は今は亡き日系アメリカ人のミノル・ヤマサキという建築家だ。ヤマサキ氏の建築代表作はワールドトレードセンター以外にも、サウジアラビアのキング・アブドラアジズ飛行場が有名だ。アラブ文化をしっかりと表現しながらモダンでミニマムに仕上げたあの美しい飛行場はアラブ世界に彼の才能を認めさせた。その後ワールドトレードセンターを手掛けたヤマサキ氏はツインタワービルの足元のエントランスの部分の外壁支柱をカーブさせた。そこにアラブ的建築を感じずにはいられない。

ワールドトレードセンター（WTC）の建造物 2001年9月11日以前



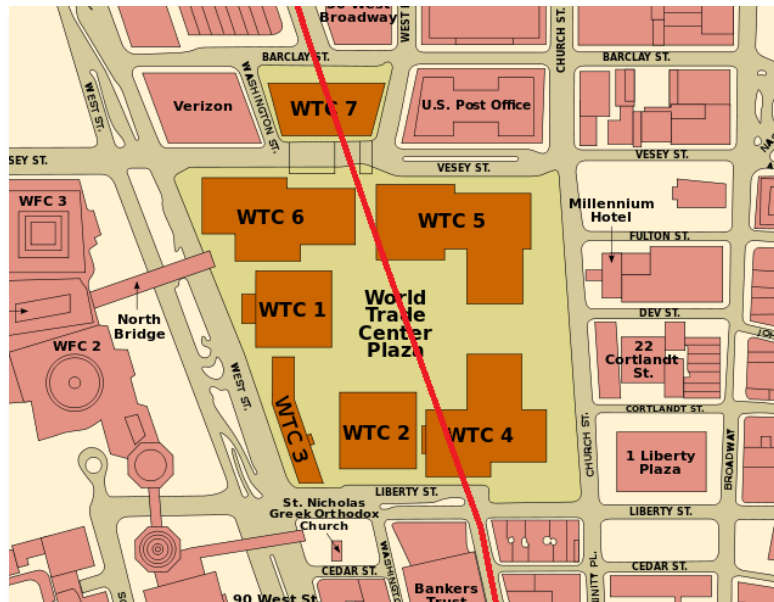
- 1WTC：ノースタワー（110階）
- 2WTC：サウスタワー（110階）
- 3WTC：マリオットホテル（22階）
- 4WTC：オフィスビル（9階）
- 5WTC：オフィスビル（9階）
- 6WTC：関税局/先物取引場（7階）
- 7WTC：オフィスビル（47階）

1WTCと2WTCは通常ノース・タワー（北）とサウス・タワー（南）と呼ばれ、2棟まとめてツイン・タワー（双子のタワー）と呼ばれていた。近くから110階の高さの2棟の巨大な直方体を見ると威圧感がある。しかし、マンハッタンのスカイラインに二本の門柱という特徴はすぐに自由の女神と並ぶニューヨークの新しいシンボルとなって親しまれた。

このWTCの敷地中央に5エーカーほどの広さのプラザ（広場）がある。プラザの中央には噴水があり、ウォール街や歩道の窮屈さから人々が一時的に解放されることを願い、ヤマサキ氏はこのプラザをメッカに例えた。ここでアメリカ人はヤマサキ氏がメッカと表現したことに違和感を感じたはずだ。メッカといえば、イスラム教のメッカを指す場合が多いからだ。アメリカ同時多発テロ事件後、世間はきつとこのメッカの話とタワーの足元部分のアラブ的デザインを持ち出してヤマサキ氏を批判したことだろう。

第二章 グリニッジ・ストリートは子午線

地図を見ていただくと、グリニッジ・ストリートがWTCの敷地が分断しているのがわかる。わかりやすいようにグリニッジ・ストリートに沿って赤い線を引いてみた。9.11後のWTCの再建設では、このグリニッジ・ストリートは以前のように再び一本のストリートに戻されている。



グリニッジ・ストリートは古くから歴史があり、ロウアー・マンハッタン地区を南北に走るおしゃれな通りである。南端はバッテリー・パークに始まり、北端はガンゼヴォート・ストリートまでハドソン川を平行して走る通りである。（その後は9番街になる）

もともとこのグリニッジ・ストリートはグリニッジ・ヴィレッジ (Greenwich Village) 地区に由来しているそうだが、このグリニッジのGreenwichは「緑の村 (Green Village)」という意味から来ているらしい。しかしフリーメイソンたちは「緑の村」にワールドトレードセンターを置きたかったわけではない。このグリニッジを彼らは「グリニッジ子午線」と比喻しWTCの敷地をまたがせたのだ。つまり、経度0度のグリニッジ子午線のことである。

イギリスのグリニッジ子午線は世界の公式な本初子午線であり、1884年のワシントンD.C.で行われた国際子午線会議によって採択された。当時の海洋国家イギリスは力を持っていたからだ。

しかしスコットランド王室天文官を務めていたイタリア生まれのイギリス人天文学者、チャールズ・ピアッツィ・スマイスはイギリスのグリニッジを基点とする子午線に反対した。彼はエジプトにあるギザのピラミッドが本来の子午線であると主張したのだ。彼のバックにはスコットランド王室とスコティッシュ・フリーメイソンがついていたと思われる。

また過去にイギリスとフランスも子午線の座を争った歴史がある。ここでもイギリス大ロジとフランス大東社が子午線をめぐって対立したことと思える。こうして国際子午線会議によって採択された英国のグリニッジ子午線が本初子午線に決定しても、長い間フランス人は「パリ子午線」を使用していたほどだ。このパリ子午線を今でもフランス国内で見ることができるが、この仕掛けはあとの第十章で説明する。とにかくフリーメイソンは今でも子午線を非常に重要視している。

ここまで本紙を読んで、だから何なのだ？と思われるかもしれないが、最後にすべて合わせて説明するのでもうしばらく解説にお付き合い願いたい。勘の良い方はすでに2棟のツインタワーはフリーメイソンの2本の柱のシンボルではないか？と気づかれたと思う。子午線を重要視していることから、このフリーメイソンの2本の柱は地球の北極軸と南極軸を表現しているはずだ。ツインタワーの別名はノースタワー（北）とサウスタワー（南）である。こういったシンボルからフリーメイソンが地球の磁場や電子といった自然科学を古代から理解していたことを感じる。

三章に続く

この電子書籍のサンプルは二章までになります。

これはサンプルですのでダウンロードしやすいように画像は最小限に抑えています。

続きはアマゾンで電子書籍をお求めください。（4月30日以降になると思います）

https://www.amazon.co.jp/s?k=B07R9NQRTH&__mk_ja_JP=%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8A&ref=nb_sb_noss

または <https://www.amazon.co.jp> へ行き、B07R9NQRTH を検索してください。

執筆者：吉野愛 <https://seijimania.com/>

現在「メディアが伝えない米国事情」というブログを執筆中